

反戦・平和
人権 環境
脱原発の
火を消すな！

HP <http://i-peace-ishikawa.com/>



PEACE石川 NO54 2016. 12. 20

発行 石川県平和運動センター
金沢市西念3-3-5 Tel076-233-2170



7/19ヘリパッド工事の強行！
機動隊により、けが人続出！

沖縄緊急

統一署名（1月10日締め切り）

最高裁「辺野古裁判」が口頭弁論も無く、年内判決。敗訴が濃厚となった。最高裁は国家のしもべか？ 沖縄の民意を受けとめよ！ 全国署名を取り組もう！



県平和七山本代表が参加した10/11高江座込み

ワンコイン・カンパ

（ご協力を！）
1/10締め切り

高江ヘリパッド・辺野古新基地建設反対闘争に参加しよう！

辺野古工事再開が迫っている。2月以降、職場から参加する体制を。

オスプレイ墜落抗議！MV22撤去！CV22配備撤回！ 高江ヘリパッド・辺野古新基地建設やめよ！

オスプレイ墜落 断固抗議！

事故隠しはやめろ！

12月13日午後9時半頃、沖縄県名護市沖に米軍のオスプレイが墜落した。米軍によると、この事故はオスプレイの空中給油訓練中にプロペラが燃料ホースに当たったと発表しているが、事故現場は米軍が規制線を張っているため、地元の沖縄県警やマスコミ、そして稲嶺名護市長さえ近づけない状態になっている。（12年前の沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落した時もマスコミ、県警・消防は現場から締め出された。）これでは、調査警察活動はできない。沖縄はアメリカの一部なのか！形ばかりの原因究明を求めている稲田防衛相は、米軍発表を鵜呑みにし「墜落ではなく不時着」として事故を小さく見せることに腐心している。事故原因がやふやにされ、またぞろ繰り返されるのは必然である。

米軍トップは「感謝されるべき」と発言！

事故に抗議した沖縄の副知事に対して、在沖米軍のトップであるニコルソン司令官は「パイロットは住居・住民に被害を与えなかった。感謝されるべきもので表彰ものだ」と語った。別名を「空飛ぶ棺おけ」「未亡人製造機」とも呼ばれるオスプレイに、沖縄では10万人の県民集会（2012年）で配備反対の意思を表明してきたし、本年5月には20歳になったばかりの女性がジョギング中に拉致、強姦、殺害される事件が発生し、6/20には「全ての米軍基地は撤去を！」という県民集会を6万5千人の結果で決議してきたのだ。なにゆえ「感謝」しなければならないのか。

感謝せよとは、副知事が述べたように「植民地意識

丸出し」であり支配者の論理だ。

どうぞ「オスプレイも訓練もいりません、撤去してください」との沖縄県の決意はまさに県民の声なのです。

全てのオスプレイ撤去！ 配備計画撤回！

在日米軍は海兵隊のMV22を普天間基地に24機、空軍のCV22を横田基地に10機配備し、自衛隊も佐賀空港に17機（2019年度以降）導入する計画を明らかにしている。日本全土では7ルートでオスプレイの夜間低空飛行が、レーダー網をかいくぐる訓練として予定されており、今回のような事故が繰り返されることは火を見るより明らかである。

多くの反対の声や事故が起ころうとも訓練を止めないのは、すでに安倍政権がアメリカと約束しているからであり、米軍とともに戦争する準備を進めているからにほかなりません。

南スーダンに自衛隊を「派兵」し「駆けつけ警護」の名の下に敵からの攻撃に反撃することは、安倍政権の戦争も辞さないという決意の表れなのです。安倍政権の暴走を阻止するには、反戦・平和の闘いを強化することなしに止めることはできません。歯を食いしばってがんばりましょう。



9.1高江でヘリパッド建設に体を張って抵抗する仲間たち

一緒に、反戦・平和、憲法改悪阻止、脱原発、環境、人権運動に参加しませんか。

▶ 賛助会員制度
PEACEネット
会員1募集中
年会費3000円

某党CM絶賛配信中

白紙領収書時代に完全対応！

5000枚の白紙領収書に5000通りの筆跡で金額を書き込む画期的ソフトが、永田町ソフトウェアから発売。予約申し込み注文が殺到しているということです。

なお、お代は白紙領収書を渡すので「勝手に記入してほしい」というので、

※パロディですが、
白紙領収書は許さんぞー！
□□□□□□□□□□□□□□□□

小松基地爆音

訴訟の勝利を！

『小松基地撤去、反戦平和爆音訴訟の現状と課題』

爆音訴訟連絡会
長田 孝志代表

1975年9月16日、12名の原告は戦闘機の飛行差し止めと損害賠償を求めて、国内で初めての法廷闘争に入りました。その背景には、ファントム配備反対の立場であった自治体が、国家権力の圧力により環境基準を中心とする10・4協定を締結することと引き換えに配備を認めざるを得ない状況がありました。この裁判闘争は、常に基地の監視をすることで基地の暴走を抑止する、一つの選択肢であるため、現在も取り組んでいる反戦・反基地、平和運動の中心であります。

小松基地の現況

現在の小松基地は、日米再編に伴う日本海側の最前線基地として変遷を繰り返す中、大きく変貌して来ています。毎年繰り返される日米合同軍事演習や、アラスカでの他国軍との集団的自衛権行使の実戦演習など、ますます危険な方向に突き進んでいると感じています。その上、今年6月には宮崎県新田原基地よりアグレッサー部隊（飛行教導群）であるF15戦闘機10機及び隊員150名が小松基地に配備され、日夜問わすの訓

練が強行されています。周辺住民にとっては、これまでも耐えがたい騒音の苦しみや墜落への恐怖を強いられた生活でありましたが、これに更に**苦痛が2割増強**されていることに強い怒りを覚えます。

医学調査の必要性

これまで闘ってききました第一次原告から第四次原告に対して、地裁・高裁で「騒音は受忍限度を超えている」と4回も国側を断罪したうえ、その被害を救済するための具体的対応策を何ら講じていないことも認定しています。

昨年5月、全原告に対して、騒音による身体的被害を立証するため、WHO（世界保健機構）の基準に沿ったアンケート調査を実施しました。その結果、267世帯（全体の約50%）から回答を得、その中の87世帯の原告に対して、更なる詳細な声を聞くための弁護士による聞き取り調査を実施しているところです。昨年11月から実施しているこの調査は第5回目となる本年12月に終える予定です。最終的には、陳述書にまとめ、原告の生の声として裁判所に提出します。

原告の訴え

今回の聞き取りの中で、具体的な声として、イライラや睡眠不足、難聴、血圧の上昇のほか、突然の爆音に驚き泣きだす乳幼児の姿や子どもの学習の妨げなど、健康や生活に悪影響を及ぼしていることが改めて分かりました。「我慢している」「慣れた」と言うことと自身が健康被害であり、精神的被害であります。私たちは真実をきちんと訴えることが民主主義であり、平和憲法を守っていく礎と考えています。「市民の声が小さくなれば、軍靴はひとり歩きする」を肝に銘じて頑張っていきたいと考えています。

出前講座

組合員・PEACE

ネット会員の皆様へ

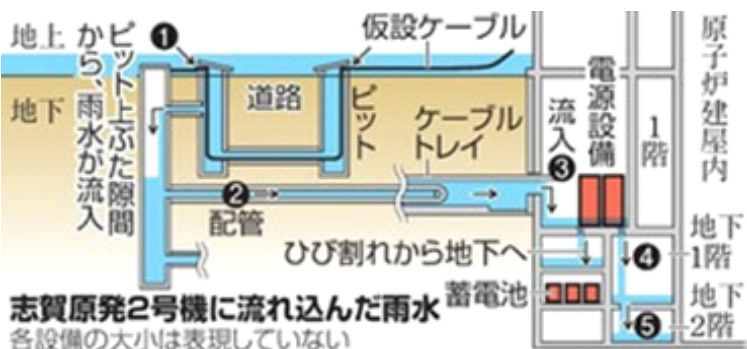
5人揃えば無料で講師を派遣します。

講師は大学教授（元職含む）、弁護士など多数。申し込みは平和Cへ

6.6tの雨水、原子炉建屋に流入

あわや全電源喪失！

9月28日8時55分、北陸電力（以下北電と略）志賀原発2号機付近で「安全性向上」のための工事中、排水槽が満杯となり警報が鳴った。現場確認はされたが「解消されるだろう」と放置され、排水路から原子炉建屋1階の非常用電気品室（常時・非常時に電源を送る分電盤や非常用蓄電池などが置かれている重要度の極めて高い設備）や放射線管理区域の地下1階、そして地下2階まで雨水が流入したのだ。最初の警報から4時間余りを経た13時4分、再び漏電を示す警報が鳴り分電盤がショートしていったのだ。（深いところで5cm、7cm以上だと電気設備に接する）この時点で初めて北電社員が対応に動き出したという。「開いた口がふさがらない」（11/15北国新聞）その結果、雨水はなんと6.6トン、あと20時間余りで電気品室が水没し全電源喪失となる一歩手前だったのだ。



志賀原発2号機に流れ込んだ雨水
各設備の大小は表現していない

しかし北電は、現地規制事務所の「軽微な事象」という発言に飛びつき、非公表という形で隠蔽した。そして10月7日、HPの「保守」欄に「事象」としてひっそりと掲載した。これが事故発生から「公表」までの全てだ。事故当日連絡を受け、翌日、現場に立ち会った石川

県は、やはり規制事務所の「法令による報告事項ではない」という考えに依拠し、なんら対応しなかった。10月3日に開催した「石川県原子力環境安全管理協議会（以下安管協の略）」では北電に「報告」すら求めず、議題にもしなかった。いったい、何の安全管理し協議しているのだろうか。

内部通報で発覚！

内部通報のゆえか規制委員会が10月19日動いた。「重要機器に水がかぶる恐怖はフクシマで経験したはず」「認識が甘い」「技術力や安全意識向上の取り組みが機能しているのか疑問」と厳しく北電の対応を問うたのだ。翌10月20日、地元紙に大きく掲載され、初めて社会的に明らかにされた。金井豊北電社長は「重大な反省材料として意識向上に取り組みたい」と陳謝したが、果たして事の本質を理解したのだろうか。石川県は自らを問うコメントすら発していない。

事の本質は、重大事故を「事象」とする「原発を運転する能力も技術も、そして緊張感も責任感もない」北電によって起こされた事故なのだ。

あらためて言う。北電は、「原発再稼働」にしか関心を持たず、その「偏りの眼」で社会を見るから間違った判断や結論に至るのだ。社会を俯瞰し「自分の頭で考えよ」（北電・永原氏）

「活断層」認定は

「非科学的」？

「断層」問題が3年有余に渡って検討され、北電も充分に「反論」の機会があった。しかし「活断層」と認定されたたん、その結論を出した有識者会合を「法的根拠がない」と否定しその認定を「非科学的」と罵倒した。理由は、同会合に「工学関係者が誰もおらず、結論には偏りがある」というものだ。しかし、3.11以降、いかなる事も安全側で判断すると北電自身が主張していたことであり、断層問題は「地質・地層・断層」関係者で議論すれば足るのだ。このことは、建築・工学関係者を含めた論

議の中で「新」規制基準として結実したことを見れば分かることなのだ。従って北電の言い分こそ「非科学的」と言わなければなりません。雨水の原子炉建屋流入、全電源喪失の危機という重大事件を起こしてながら、「事象」と語って平気な企業に、私たちの生活、県民の安全・安心を任せるわけにはいきません。

安全管理・義務違反！

一方、監督責任がある石川県には、脱原発を唱える「識者」を「県参事」として原子力安全対策室に配置しなければなりません。それは、現状では志賀原発の管理・監督ができていないからです。同時に、今回の事件を見過ごした監督責任を問わなければなりません。安全管理義務違反として関係者の処分を求めます。より根本的には、小松基地と同じく、いまずぐ志賀原発を「廃炉」にしなければ、石川県民に安心安全は訪れないのです。

闘いの軌跡



10.21反戦・平和集会



10.27雨水流入事件で申入れ



12.8戦争を許さない集会



11.3戦争を許さない集会



12.8社会法律センター総会
「最高裁は沖縄の民意を尊重せよ！」決議採択

当面の日程

- 12月21日マイナンバー訴訟
- 12月27日戦争を許さない！街宣
- 1月5日新春の集い！旗開き！ANAホリデイ・イン金沢スカイ（16：00第3回運営委員会）
- 1月6日白山平和七旗開き
- 1月7日社民党新春交歓会
- 1月10日戦争を許さない！街宣
- 1月19日戦争を許さない！街宣
- 1月24日四高記念公園 八団体
- 1月24日戦争を許さない！街宣
- 1月25日広場違憲！訴訟判決
- 1月27日小松能美単組協連絡会 旗開き 金沢平和旗開き
- 2月5日「資本主義の終焉と歴史の危機」〜どんな次代をめざすのか、成長社会から成熟社会へ〜 講師 水野和夫さん（法政大学教授） 未来塾「大人の学び」女性センター 参加費1000円
- 2月7日2.8ジェット機墜落47周年「戦争する国をいかに止めるか」改憲阻止の観点から（仮題）集会 青年女性部集会
- 2月14日戦争を許さない！街宣
- 2月19日戦争を許さない！ピースメント 八団体
- 2月28日戦争を許さない！街宣 憲法を守る会総会 講師「標的の村」三上智恵監督

最新情報はHPにて

編集後記

志賀原発 弱いのは地震だけじゃない。雨水にも無責任を地で行く雨水事件の当事者、北電と石川県。危機一髪の状態は責任を追求しない両者のもたれ合い、「甘い」関係から、しっかり責任を迫ろう。志賀原発訴訟は来年早々結審か。小松基地訴訟はいよいよ証人尋問に入り結審は3年後。広場訴訟は1月25日上告審判決。それにしても安倍政治の「失策」が続いている。TPP、北方領土、南シナ海、原発、アベノミクスも破綻。しかし支持率は下がらない。国民は吐く様につく嘘に騙されている。NT